

## 令和5年第4回定例会



令和5年第4回（12月）菊池市議会定例会は、11月28日から12月21日まで23日間開催されました。

今回の議会において主だった議案は、菊池市一般職員の給与増。菊池市議会議員の報酬増に関する条例の一部改正。公の施設の指定管理者指定（ほとんどが、令和6年4月1日から令和11年3月31日の5年間）および、令和5年度の一般会計補正予算です。

令和5年度の一般会計補正予算は、**14億361万円**が追加され、一般会計予算の総額は**294億6,730万円**になりました。

一般会計補正予算で主なものは、住民税非課税世帯等への給付金（全額国庫支出金）の、**4億4,488万円**。LPガス使用世帯への支援金（県1/2、市1/2）の**6,422万円**。七城体育館アリーナの照明器具取替（LED化）の**1,230万円**です。

### 市議会議員報酬増の条例が可決！

菊池市議会議員の報酬を、菊池市一般職員の給与と同様に上げるための、条例の一部改正が上程されました。

一般職員の給与を人事院勧告に基づいて、社会情勢等と照らし合わせて引き上げることに異議はありませんが、この物価高騰で厳しい状況が続いている中、議員の報酬を上げるなんてもってのほかです。しかし、自分らの報酬増に対して、賛成討論をされた女性議員がいたことには驚きました。

ましてや、前回（令和4年5月）の菊池市議会議員の選挙は無投票であったことを鑑（かんが）みれば、とても賛成できるとは思いませんが。

採決の結果は、**賛成：11、反対：8**で可決となりました。身を切るどころか、保身にはしる議員が多いことは、まさに国政の縮図のようで、呆れてしまいます。

### 公の施設の指定管理者指定

今議会で上程された、公の施設の指定管理者指定について、21案件あったなかで2つの施設の指定管理者指定において、反対しました。

反対の理由は、右記上段のとおりです。

七城町特産品センター（メロンドーム）と、七城町振興公社（リバーサイドパーク）に関しては、令和3年12月17日の熊日新聞に、2法人が5年間で約2,000万円の交際費を支出していた問題で、菊池市監査委員は、そのうち523万円が不当支出だったとする監査結果を明らかにしました。

そこで2法人に対し、市からは経理規定改善が勧告され返還を求められましたが、両法人が自ら判断した返還額は、不当支出と指摘された金額の半額（263万円）です。それも指摘されてから、約2年間が経過した後です。

不当支出と監査指摘を受けた金額の半額しか返還せず、どのように自浄作用が働いているかわからない法人を指定管理者に指定することは認められない理由から反対討論を行いました。



令和5年10月に台湾を訪問した際、同志議員5人で親交のあった台湾の半導体関連企業を訪問し、会社の説明を受けて工場見学を行いました。

その会社の社長の紹介で、TSMCと関連が深い宝山町（台湾では寶山郷）を訪ねることができ、邱町長を筆頭に県と町の職員さんからも熱烈歓迎を受け、ありがたいことに、この度菊池市にこの企業を誘致することができました。

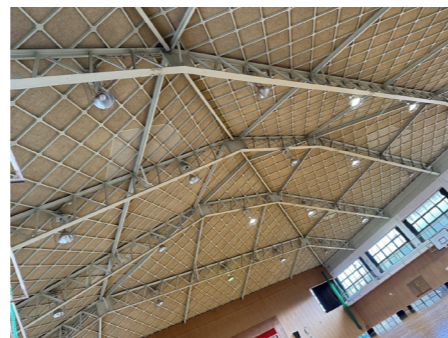
また、お隣の山鹿市の旧中富小学校の体育館を、山鹿市と交渉して、この台湾企業に使用していただくこともできました。

### 七城体育館アリーナの照明をLED



七城体育館アリーナの照明は度々電球切れによって、使用されている方々からの苦情が寄せられていました。体育館の天井は高く、交換も容易にかつ頻繁にすることができない状況でしたが、今回の令和5年度一般会計補正予算で、可決されました。

全ての電球をLEDにすることで、長寿命化され、使用者のストレス軽減になると思います。



# 市政通信

菊池市政に民間企業での経験と、市議会議員としての5年間の経験で  
意思決定・政策のチェックの場に、培った視点を活かします

令和5年12月議会 vol.17

## 福島ひでのり



あけましておめでとうございます！

今年は元旦から、石川県・能登半島を中心とした大地震が発生し、また2日には羽田空港で日本航空機が皮肉にも、その石川県に物資を運ぶ為の海上保安庁の航空機と衝突するといった、悲惨な新年の幕開けとなりました。被災に遭われた皆さまには、心より哀悼の意を表するとともに、お見舞いを申し上げます。

また国際情勢におきましては、パレスチナ・ガサの戦闘が続き、ウクライナ侵略も長期化しています。国内では物価高騰により生活にも影響が出ており、早い収束を望むばかりです。

そのような中、今年3月には熊本県知事選挙が行われます。国政では政治と金、政治資金の裏金作りで永田町は大きく揺らいでいる状況ですが、誰に県政を委ねるべきかを、しっかりと見定めたいと考えています。

福島ひでのりは、議会において”身を切る改革”の一つとして、公約でもある菊池市議会の『議員定数削減』を、何としてでも今年には実現します！

今年は辰年です。昇り龍のごとく、力強く飛躍できる年になりますよう、皆さまのご健康

福島ひでのり.com

もしくは、右のQRコードを読み取って、ホームページやLineにアクセスしてください。



連絡先  
〒861-1357 熊本県菊池市七城町高田 640-1  
TEL：090-5288-2466（携帯）  
e-mail：kenfuku2001@yahoo.co.jp  
発行者：菊池市議会議員 福島英徳

# 市民の声を市政に活かす、一般質問

## 菊池市の観光戦略について

**福島：**菊池市観光戦略会議が定期的実施されていますが、この戦略会議の構成および、始まった時期とこれまで何回行われてきたのか。また、その会議は観光戦略の骨子に沿って進められていると思いますので、観光戦略の骨子についても併せてお示しください。

**経済部長：**観光戦略会議については、観光戦略の立案や各種事業を円滑に推進することを目的に設置しており、令和4年3月に観光振興ビジョンを策定した後は、昨年7月と11月に開催し、本年度は6月と11月に開催している。

観光戦略会議の構成は、県北の広域本部長、観光旅館組合の代表理事、江頭市長、社交業組合の理事長、観光協会の代表、菊池温泉おかみ湯恵の会の会長、J A菊池の組合長、第三セクターの連絡協議会の会長、商工会の会長、それと私、三池がやっており、これが構成の委員となる。

**福島：**観光振興ビジョンに謳（うた）われている、菊池ファンクラブについてお尋ねします。菊池ファンクラブの運営はどこが行っているのか。そして、ファンクラブの会員数及び令和5年度の目標数と今後の計画について教えてください。

**経済部長：**市から補助金を交付し、令和2年2月に菊池観光協会が運営主体として創設をした。

令和5年度の会員の加入目標は2,000人としている。令和4年度末の会員数は3,738人、本年10月末現在の会員数は4,616人で、878名の増となっており、ファンクラブの最終的な目標は、令和7年度末で1万人としている。

**福島：**令和7年で1万人、せめて10万人ぐらいの目標にしましょうよ。ファンクラブ会員数を増やすためには、登録手続の簡素化が必要だと思います。また、発信力が弱く、インスタグラムの更新も遅く、今年の8月から更新されていません。おまけに、ファンクラブ会員になるメリットは何

なのか、そして、ターゲットはどこなのか、私はこのように感じていますが、部長の認識をお聞かせください。

**経済部長：**スマートフォンに慣れていない方もいらっしゃるので、観光協会と連携して、より丁寧な手続の手伝いに努めたいと考えている。

**福島：**菊池の魅力は何かの問いには、歴史、温泉、溪谷に加え、肉、米、メロンなど豊富な農産物があるといった要素を都度挙げられます。しかし、これらはどこにでもあるんです。菊池にはこれがあるといった基本の柱が必要であり、それがあるからこそ、歴史であり、温泉、溪谷、そして、豊富な農産物が生きてくるのではないのでしょうか。そこで、市長にお尋ねします。

市長が力を入れられているさくらプロジェクトにしても、南阿蘇の一心行の大桜1本に及ばないのが現状です。奈良県の吉野山桜は上・中・下の3段階で楽しめます。要するに、菊池市のシンボル、菊池には〇〇がある、行ってみようか。そういえば菊池は歴史も長く、温泉や溪谷もあり、おいしい食材もある。帰りに買って帰ろうかといったことも十分考えられます。このようなプラスアルファのシーズが多くあるのは菊池市の強みだと思います。例えば、台湾の方をターゲットにした場合、台湾夜市を月に1回程度、定期的で開催するといった観光ビジョン、観光戦略について、胸躍するような市長の考えをお聞かせください。

**市長：**自然を生かしていく云々かんぬんということは、大半の地方も同じことを考えている。ですから、そこは差別化がなければ、JRも高速もないこの菊池にわざわざ来てくれないだろうと。

温泉については、温泉街のリブランディングということにも取り組んでいる。そして、こうしたものをなるべく短期間のうちに、世の中に周知してもらうための一つの戦略としてやっているのが、黒船戦略と呼ばれるインバウンド戦略であり、評論ではなくて、具体的にそれを実現していくということが一番大事であり、これが今、考えている私どもの観光戦略である。

## GIGA スクール構想の現状と課題について

**福島：**ICT環境を整備したGIGAスクール構想が始まりましたが、タブレット活用の実施時期が令和2年12月ですから、もうすぐ3年が経過することになります。コロナ過により実施時期も早まり、この3年間は、初めての取組でもあり、手探り状態での活用だったのではないかと思います。その間、いろんな課題も見えてきたのではないのでしょうか。使用している児童生徒や保護者、特に学校の先生方からの要望も多かったと思われます。もちろんコロナ禍の時期にオンライン学習などの効果もあったと思いますが、この3年間の現状と課題についてお示しください。

**教育部長：**成果は大きく分けて二つある。一つ目は、授業の質の向上であり、二つ目は、誰一人取り残さない学びの保障だと考えている。

課題としては、端末の不具合や落下等による破損がある。また、一斉に利用する際の通信が不安定になるといった物理的な問題がある。この対応には、ICT支援員等の専門的な技術が必要になることが挙げられる。また、指導者の学習支援ソフトを含めたICT機器の操作スキルに個人差が生じないように、適切な支援や研修を行う必要があるということも挙げられる。

**福島：**児童生徒はタブレットを持ち帰っていることと思いますが、毎日使用することは奨励されているのでしょうか。自主性に任せた場合、学校、学級によって、活用量と活用方法の格差は生じていないか、これは心配です。ハードとネットワーク維持に多額の税金を投入して進めているという意味をもう一度考え、先ほども言われました、誰一人取り残さない、全ての子どもがひとしく高品質な教育を受けるというGIGAスクール構想の原点に立ち返ることが大切だと考えます。

今こそ、菊池市内の学校のICTとの向き合い方はこれでいいのか、しっかりと見詰め直すべきだと考えます。先ほどの部長答弁にもあったとおり、ある程度の課題は把握されていると思います。やはりこの3年間の課題を次に生かすために、有効に取り組んでいただきたいと考えております。

また、GIGAスクール構想において、教師のITスキルに教育の質を依存していると言っても過言ではないと思います。教師のITスキルは十分だとお考えでしょうか。十分でないとしたら、どのような対策が行われているのか。

教育長にお尋ねいたします。先ほど申したとおり、GIGAスクール構想においては、もう後戻りできない状況にあります。各学校や学級が教師のITスキルの質によって格差は生じていないかなど、課題は把握されていると思いますので、3年を経過した今、総括までとは言いませんが、課題との向き合い方を含めて、今後、どのように取り組んでいく考えなのかをお聞かせください。

**教育長：**タブレットの持ち帰りについては、基本的に持ち帰るように指導している。家庭でのドリル学習や調べ学習、また宿題等もタブレットを活用して行うように指導している。次に、教職員のICTの活用スキルの差があるんじゃないかというところの点については、その課題が十分あるということ認識している。そのため、職員の操作スキル向上に向けては、教育委員会において、ICT教育推進委員会を年4回実施している。そこに各学校の先生方に参加していただき、お互いの推進委員の方々に学校活用方法を学んでいただき、それを各学校でICT活用研修会ということを実施していただき、学級・学年間で指導の差ができないように取り組んでいる。

今後の本市の計画は、ICT端末の活用について、指導者のスキルに差が生じないように、効果的な活用方法の研究を進めていきたい。また、さらなる高みを目指した技術の習得を目指して、今後も、タブレット導入による一番の成果は、授業改善が図られている点であるので、タブレットを使うことが目的ではなくて、タブレットの活用により、児童生徒の主体的な学びが展開できるよう取り組んでいく。

**福島：**教師のITスキルというところに関しては十分理解されているというところで、安心はしました。ぜひ各学校・学級によって差が生じないように、くれぐれもお願いしたいと思います。

GIGAスクール構想が菊池市としては成功するように願っております。